

2020年度決算(案) 説明資料

相互会社としての使命	P1	資産運用の状況(富国生命単体)	P9
新型コロナウイルス感染症への対応	P2	基礎利益、経常利益・当期純剰余の状況	P10
100周年に向けて	P3	健全性の状況	P11
経営の差別化の歴史	P4	オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・マネジメント	P12
2020年度決算(案)のポイント	P5	2020年度決算の社員配当金案	P13
保険業績の状況(2社合算)	P6 ~ P7	【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)	P14
保険料等収入、金融機関窓販の状況	P8		

富国生命保険相互会社

2021年5月21日

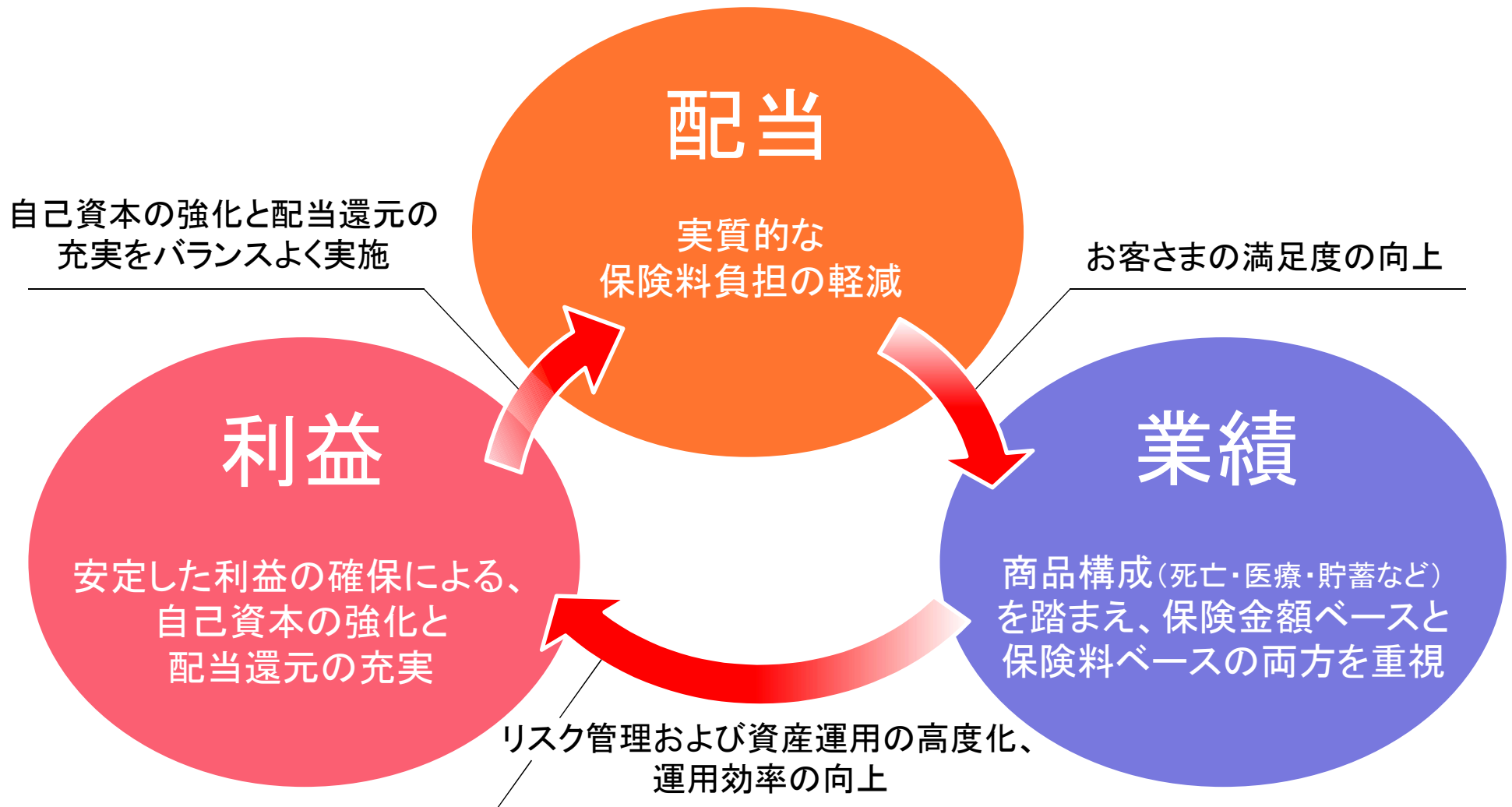


すてきな未来応援します

フコク生命

相互会社としての使命

安定した利益を確保し、配当還元の充実を通じてご契約者の実質的な保険料負担の軽減を図ることが相互会社としての使命であり、保険会社としていかなる時にも保険金等を確実にお支払いすることが最も重要な責務であると考え、実践しております。



新型コロナウイルス感染症への対応

特別取扱いについて

- ◆ 保険料払込猶予期間の延長(2021年11月1日まで)
- ◆ 保険契約の更新について、更新期限を過ぎた場合でも柔軟に対応
- ◆ 保険金・給付金、契約者貸付等の手続きの簡略化
- ◆ 医療機関の事情等により入院できず、臨時施設等において入院と同等の療養を受けた場合は、その療養期間に関する医師の証明書等をもって、入院給付金等をお支払い
- ◆ 保険金削減支払法または特定部位不担保法を適用した契約において、新型コロナウイルス感染症によって支払事由が生じた場合に、保険金の削減や給付金の不支払いを行わない
- ◆ 新型コロナウイルス感染症を災害保険金等の支払対象とする

保険金・給付金のお支払い状況

(単位:件、百万円)

保険金		給付金	
支払済件数	支払済金額	支払済件数	支払済金額
57	356	3,055	419

※富国生命、フコクしんらい生命の合算、2021年3月末時点

感染症サポートプラス

医療大臣 ∞ プレミアエイト
医療保険(16) の入院見舞給付特則がパワーアップ!

感染症サポートプラス

新型コロナウイルス等の所定の感染症で入院した場合、入院日数に応じた入院給付金に上乗せして

2倍 からお支払いします!

従来の入院見舞給付金を

期間限定
での上乗せ給付!!
(2020年12月28日~2022年1月31日の間に支払事由に該当した場合が対象です)

- ◆ 2020年12月より、販売中の医療保険において、新型コロナウイルス感染症等に対する入院見舞給付金が従来の2倍となる「感染症サポートプラス」の取扱いを開始
- ◆ 支払いの対象となる入院を2022年1月31日までの期間に限定することにより、保険料を変えることなく既契約のお客さまに対しても保障を拡大

THE MUTUAL

次代の“相互扶助”を考える

「THE MUTUAL」(ザ・ミューチュアル)とは
共感・つながり・支えあいをベースとした
次の100年に向け進化する次代の“相互扶助”のこと
そして、フコク生命に関わるすべての人のつながりを深め支えあう
真の“相互扶助”を体現する組織を目指す決意

創業

- 『保険事業の進むべき方向は、「ご契約者本位」しかない』という想いのもと相互会社として創業
- 創業以来、相互会社形態を貫く唯一の会社

1923年
創業

2018年
95周年

2020年

100周年

- 「THE MUTUAL」の体現
- フコク生命に関わるすべての人と共感しあえる会社となる

2023年
100周年

100周年プロジェクトスタート

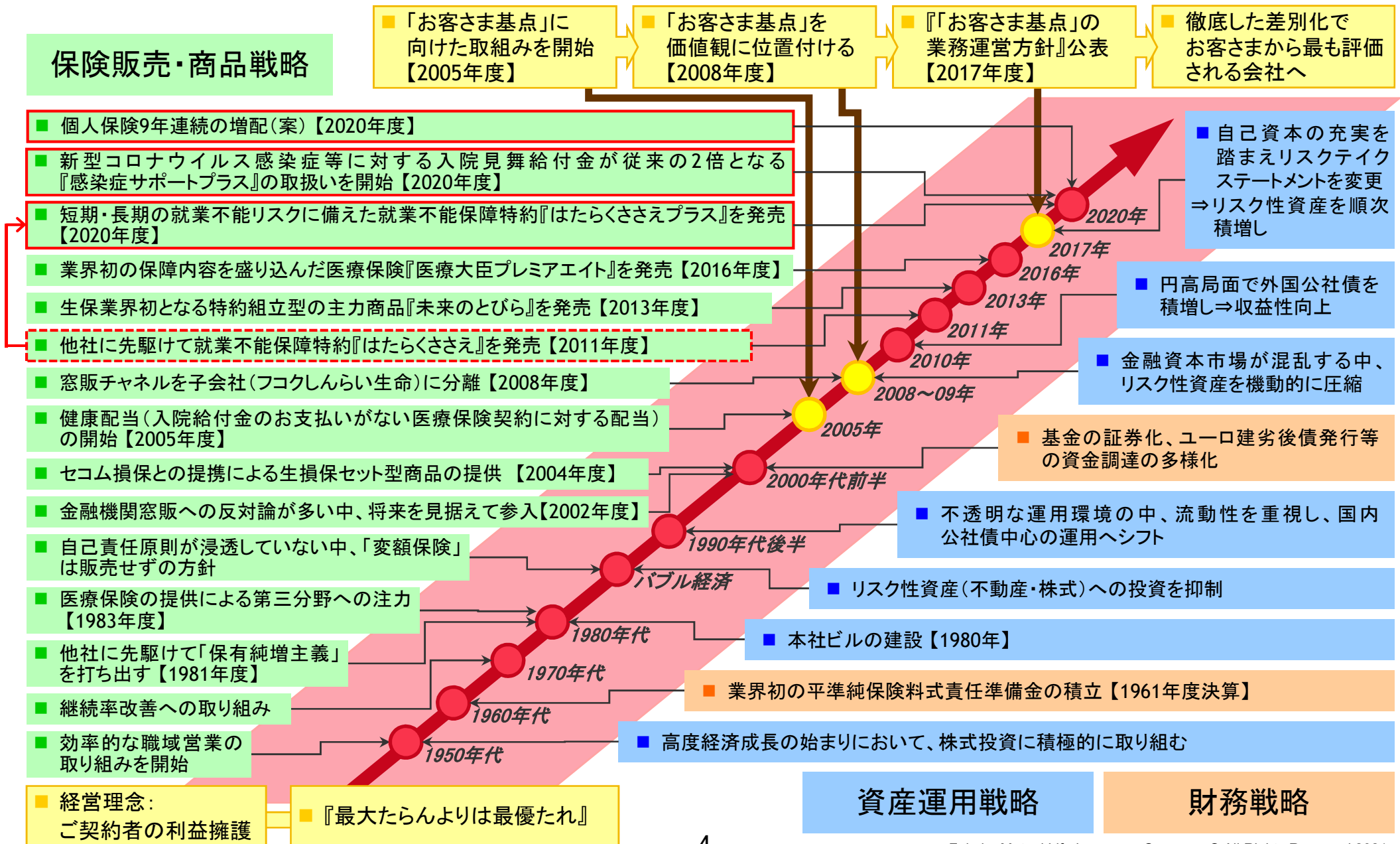
- フコク生命が考えていることや想いを、100周年プロジェクトのスタートアップとして宣言
- 100周年までの5年間で、次代の相互扶助を模索しながら発信していく

分科会(NEXT100)活動

- 地域のつながりを発信していく「FIND THE MUTUAL」の実施
- 特別支援学校生徒の美術作品をエコバッグ等のデザインとして活用し、子供たちと社会がつながるお手伝いをさせていただく「THE MUTUAL Art for children」の始動

経営の差別化の歴史

自主独立路線のもと、経営の差別化を図る



2020年度決算(案)のポイント

1 新契約は第2四半期以降回復、解約・失効は大幅に改善

- ◆ 富国生命、フコクしんらい生命合算の新契約高は、前年度比3.5%減少、新契約年換算保険料は同12.3%減少
- ◆ 新商品「はたらくささえプラス」の発売や「感染症サポートプラス」の取扱い開始が寄与し、第2四半期以降の新契約は前年を上回る水準
- ◆ 2社合算の解約・失効は、コロナ禍における保険ニーズの高まりとアフターサービスの徹底により大幅に改善

2 第三分野の保有契約年換算保険料は17年連続増加

- ◆ 2社合算の保有契約年換算保険料は横ばい、第三分野については前年度末比0.7%増加と、開示以来17年連続で増加

3 超低金利下でも基礎利益は増加

- ◆ 2社合算の基礎利益は、解約・失効の改善により保険関係損益が前年並みを維持するとともに、富国生命の利息及び配当金等収入が過去最高を更新するなど利差益が増加したことにより前年度比0.3%増加

4 引き続き高い健全性を維持

- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は前年度末比27.8ポイント低下の1,303.9%となり、引き続き高い水準を維持

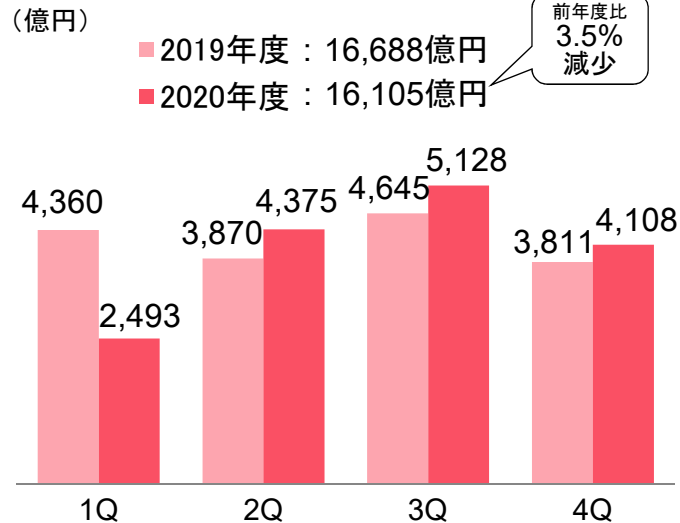
5 個人保険分野・企業保険分野とも増配、個人保険分野の増配は9年連続

- ◆ 個人保険分野では、死亡保障性特約と医療保険について増配、個人保険分野の増配は9年連続
- ◆ 企業保険分野では、団体年金保険のうち確定給付企業年金保険等について利差配当を増配、また、2018年に発売した新団体医療保険について企業の健康経営を支援する「健康経営配当」を新設

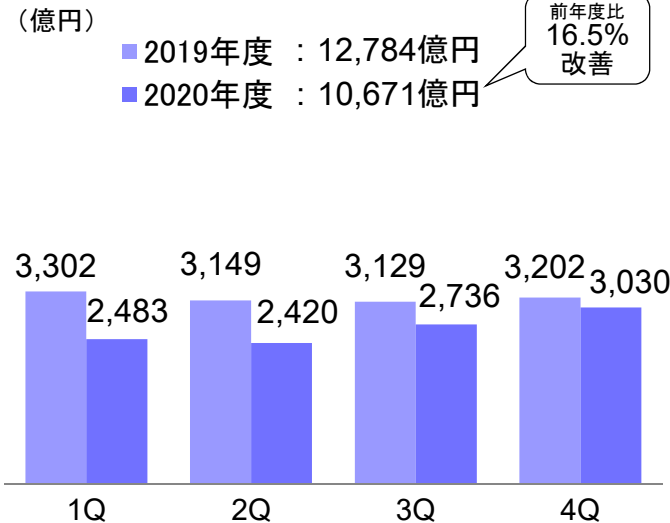
保険業績の状況(2社合算) 新契約・解約失効

※個人保険と個人年金保険の合計

新契約高



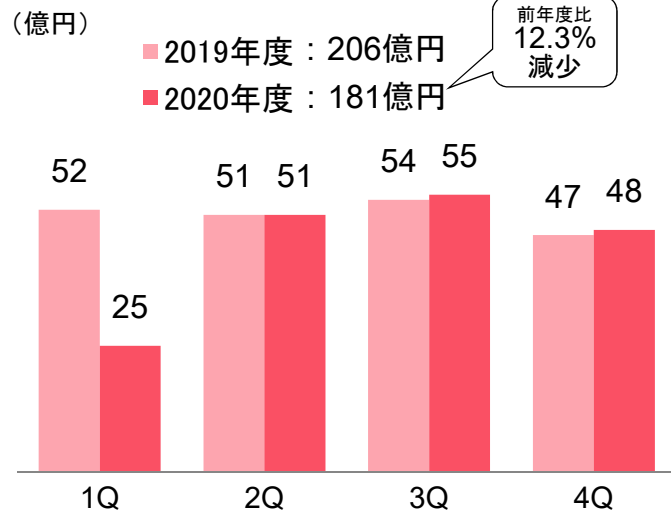
解約失効高



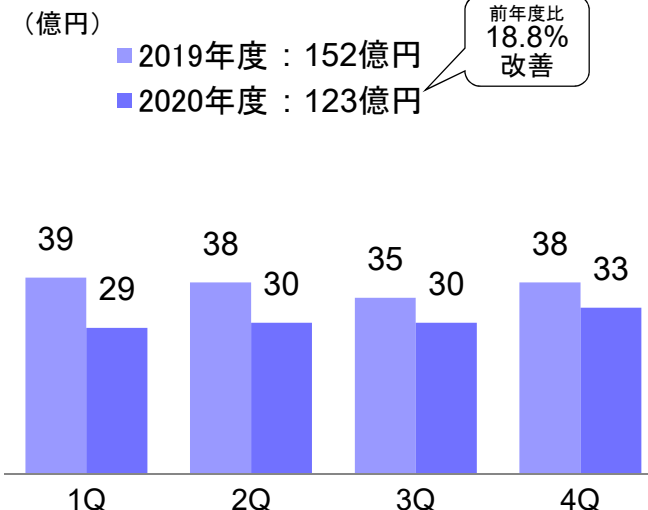
◆ 新契約高は、第1四半期に大幅に減少したものの、新商品「はたらくささえプラス」の発売や「感染症サポートプラス」の取扱い開始が寄与し、第2四半期以降は前年を上回る水準に回復

◆ 解約失効高は、コロナ禍における保険ニーズの高まりとアフターサービスの徹底により大幅に改善

新契約年換算保険料



解約失効年換算保険料



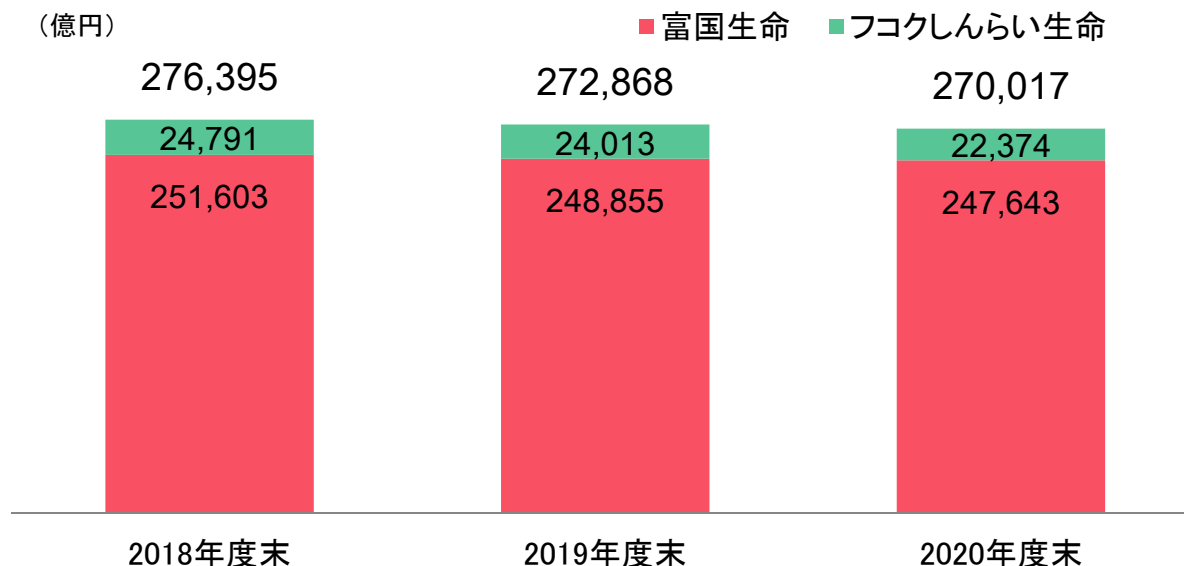
◆ 新契約年換算保険料は、前年度比12.3%減少

◆ 解約失効年換算保険料は、同18.8%減少

保険業績の状況(2社合算) 保有契約

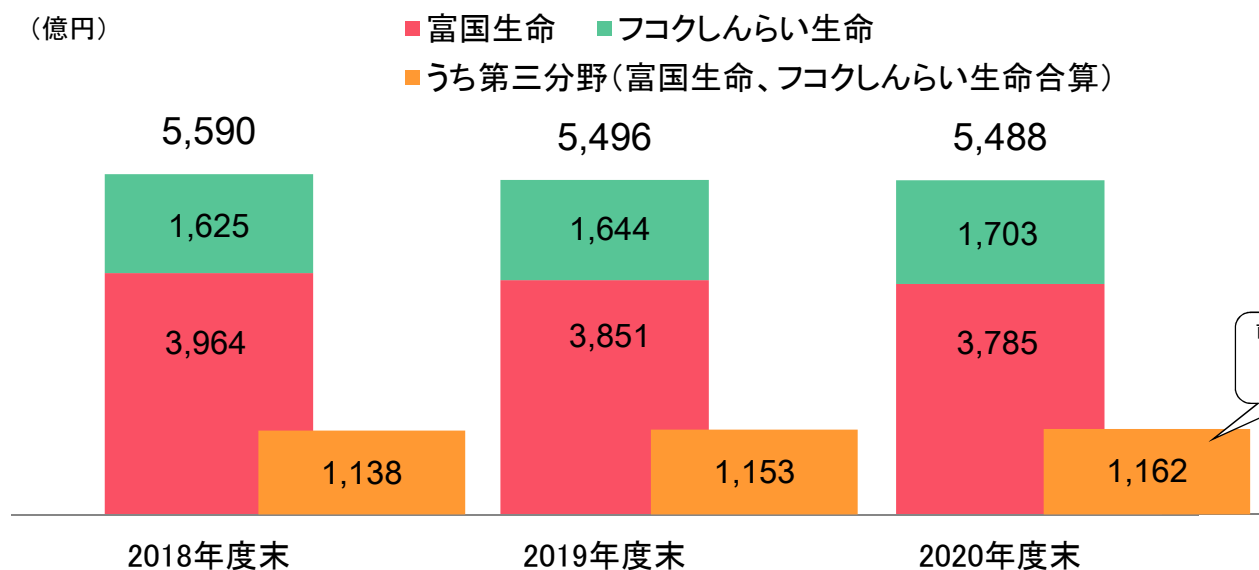
※個人保険と個人年金保険の合計

保有契約高



- ◆ 保有契約高は、前年度末比1.0%減少
- ◆ 減少幅は年々縮小しており、引き続き反転増加に向けて取り組む

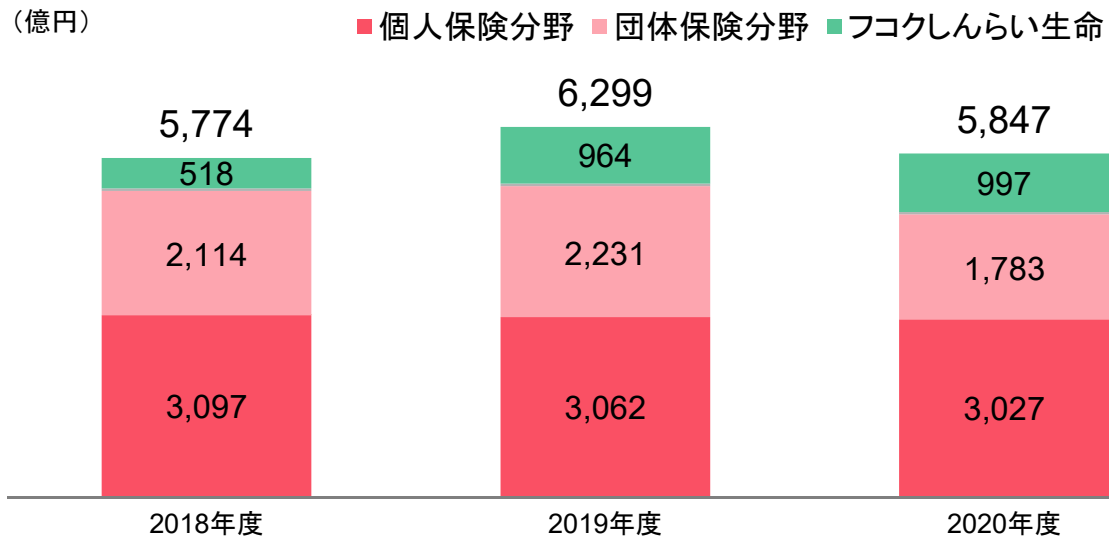
保有契約年換算保険料



- ◆ 保有契約年換算保険料は、前年度末比0.1%減少、うちフコクしんらい生命は同3.5%増加
- ◆ 第三分野の保有契約年換算保険料は、同0.7%増加

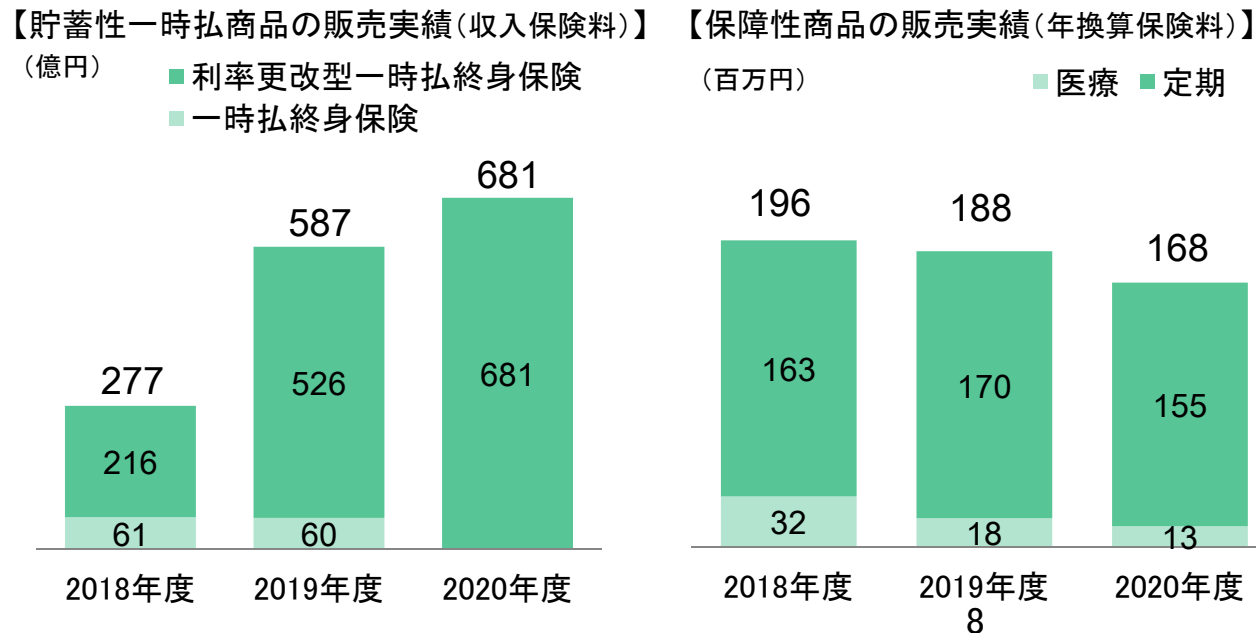
保険料等収入、金融機関窓販の状況

保険料等収入(富国生命、フコクしんらい生命合算)



- ◆ 保険料等収入は、前年度比7.2%減少
- ◆ 富国生命の団体年金保険の減少が主な要因

金融機関による保険販売実績(フコクしんらい生命)

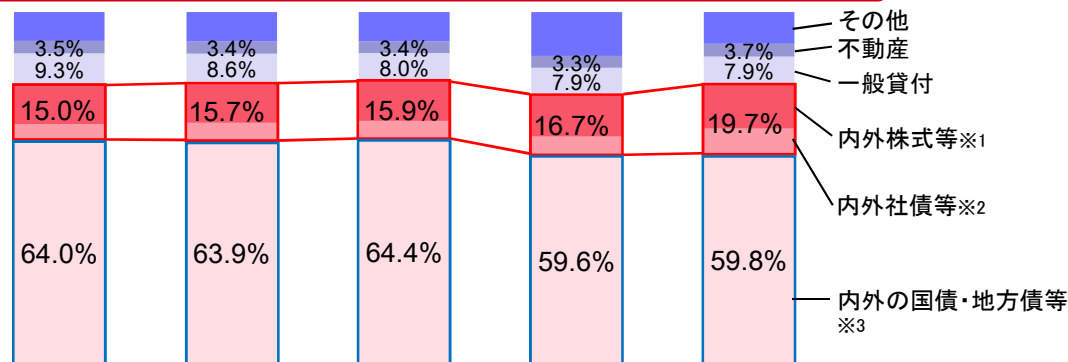


- ◆ 金融機関窓販もコロナ禍の影響を受けるも、利率更改型一時払終身保険は8月以降の販売が好調に推移
- ◆ 貯蓄性一時払商品の収入保険料は、前年度比16.1%増加

資産運用の状況(富国生命単体)

- ◆ 2017年度より、自己資本の充実度状況とリスク・リターン効率を踏まえ、資産運用リスクを取りに行く戦略に変更。超低金利環境が長期化する中でも安定した収益性を維持するため、国債への投資を抑制し、内外の株式や社債を積み増してきた
- ◆ 2020年度は、安定した配当が見込める内外の株式や外貨建を中心に社債を積増し。また、一定の流動性を確保しつつ収益の底上げを図るため、短期資金を取り崩して超長期国債へ振向け
- ◆ 利息及び配当金等収入は、こうした取組の推進に加え、内外の株価上昇による株式ファンドの分配金増加などが寄与し、3年連続で過去最高を更新

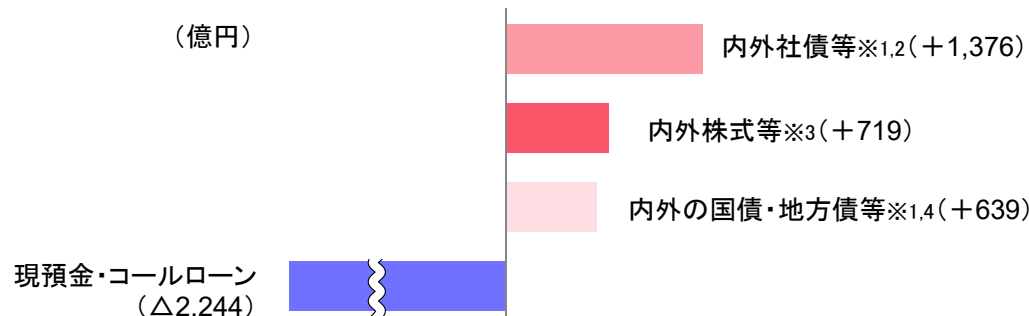
一般勘定資産の資産構成比(帳簿価額ベース)



2016年度末 2017年度末 2018年度末 2019年度末 2020年度末

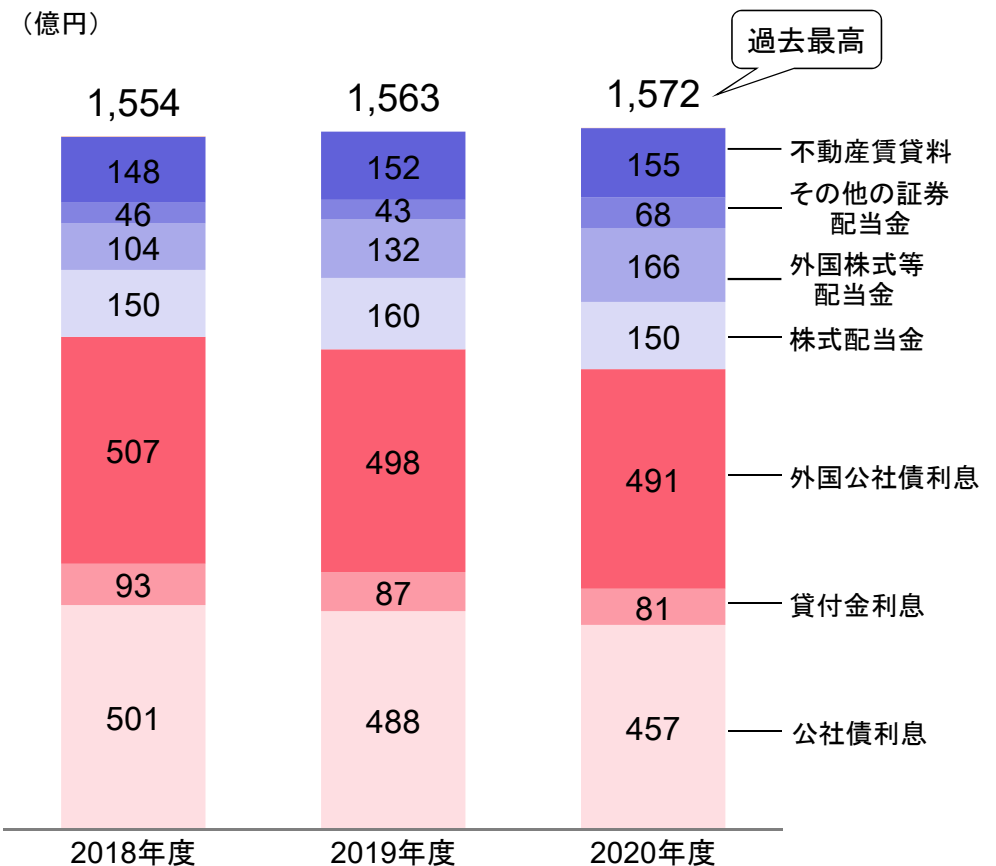
※1 投資信託を含む(ただし投資対象が外国債券であるものを除く) ※2 外国社債を投資対象とする投資信託を含む
 ※3 国債、地方債に加え、政府機関債、国際機関債等、及び、外国国債・地方債等を投資対象とする投資信託を含む

2020年度の主な運用資産の帳簿価額残高の増減額



※1 損益計算書に計上した外貨建公社債の評価損益・為替換算損益を控除したもの
 ※2 外国社債を投資対象とする投資信託を含む ※3 投資信託を含む(ただし投資対象が外国債券であるものを除く)
 ※4 国債、地方債に加え、政府機関債、国際機関債等、及び、外国国債・地方債等を投資対象とする投資信託を含む

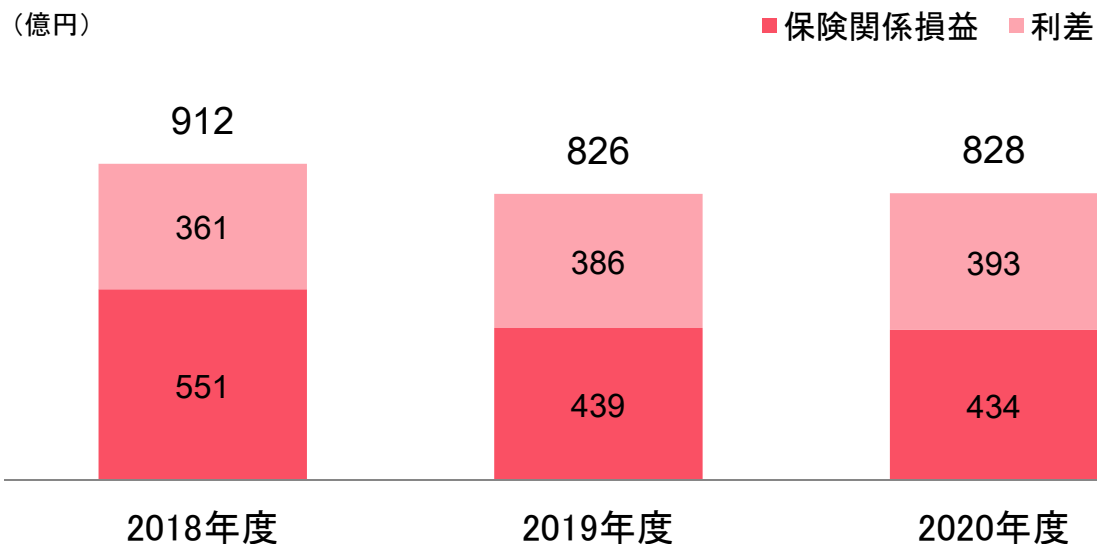
利息及び配当金等収入※



※売買目的有価証券運用益(損)に含まれる利息及び配当金等収入を含む

基礎利益、経常利益・当期純剰余の状況

基礎利益(富国生命、フコクしんらい生命合算)



- ◆ 基礎利益は、前年度比0.3%増加
- ◆ 解約・失効の改善により保険関係損益が前年並みを維持
- ◆ 富国生命の利息及び配当金等収入の増加が寄与し、利差益が増加

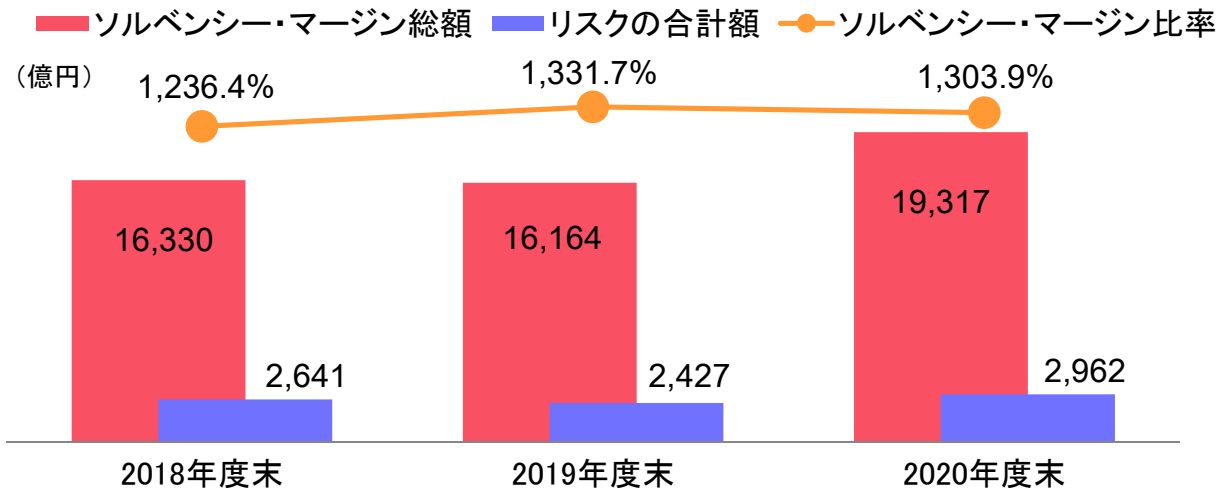
経常利益・当期純剰余(富国生命単体)

	2018年度	2019年度	2020年度
基礎利益	912	834	843
キャピタル損益	△46	4	0
臨時損益	△333	△350	37
うち危険準備金繰入額	173	105	148
うち追加責任準備金繰入額	159	241	△205
経常利益	533	488	881
特別損益	△157	△116	△519
うち価格変動準備金繰入額	154	114	500
当期純剰余	368	341	354

- ◆ 追加責任準備金の戻入により、臨時損益が前年度比387億円増加したため、経常利益は同392億円増加の881億円
- ◆ 価格変動準備金を500億円繰り入れたことにより、特別損益が△519億円
- ◆ 当期純剰余は、同13億円増加の354億円

健全性の状況

連結ソルベンシー・マージン比率



◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から27.8ポイント低下したものの、1,303.9%と引き続き高い水準を維持

ソルベンシー・マージン比率(富国生命単体)

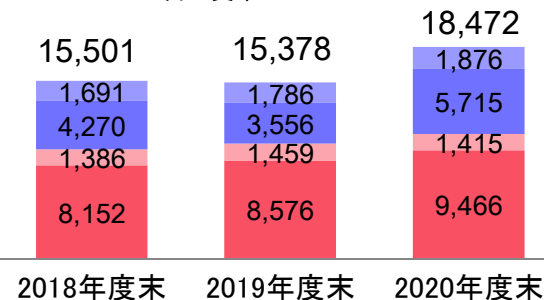
【ソルベンシー・マージン比率】

	2018年度末	2019年度末	2020年度末
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,189.7%	1,290.8%	1,261.6%

【ソルベンシー・マージン総額(A)】

(億円)

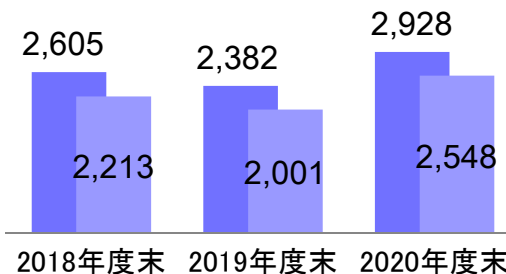
- その他
- その他有価証券の評価差額 × 90%
- 土地の含み損益 × 85%
- 自己資本



【リスクの合計額(B)】

(億円)

- リスクの合計額
- うち資産運用リスク相当額

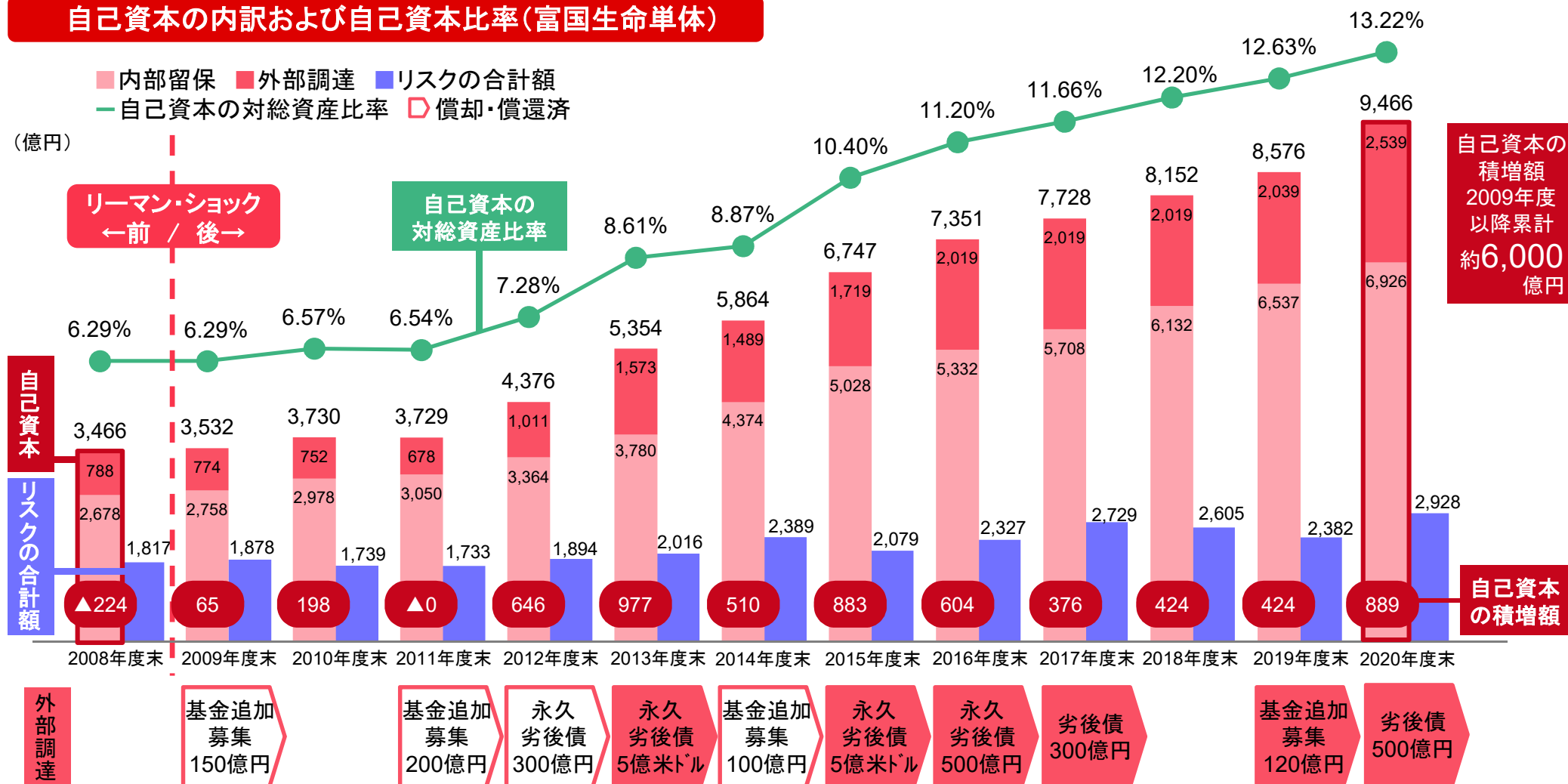


- ◆ ソルベンシー・マージン比率は、前年度末比29.2ポイント低下の1,261.6%
- ◆ ソルベンシー・マージン総額が有価証券等の含み益の増加や内部留保の積増し、劣後債の発行などにより増加
- ◆ リスクの合計額が内外株式等の積増しなどにより増加

オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・マネジメント

- ◆ 経常益による内部留保の積上げを第一義とし、適時、外部調達を行うことで自己資本を強化
- ◆ 2020年度においては、内部留保の積増しや劣後債500億円の発行などにより、自己資本は889億円増加
- ◆ ERMを着実に進め、保険金等の確実な支払いと配当還元の充実を通じ、ご契約者に安心・満足を提供

自己資本の内訳および自己資本比率(富国生命単体)



2020年度決算の社員配当金案

相互会社である当社は、今後とも強固な財務基盤を維持しながら、配当還元の充実を通じてお客さまの
実質的な保険料負担の軽減をさらに進めてまいります。

■ 個人保険分野

—個人保険について**9年連続**の増配、増配額は約2億円、増配件数は約100万件

- ✓ 危険差益への貢献が大きい主力商品『未来のとびら』の死亡保障性特約について、危険差配当を増配
2018年4月以降に締結した契約を危険差配当の対象に追加
- ✓ 新型コロナウイルス感染時の保障を拡大しなかった医療保険について、保障の拡大に代えて増配

■ 企業保険分野

—団体年金保険のうち確定給付企業年金保険等について、株式含み益の増加をふまえ利差配当を増配、増配額は22億円
—2018年発売の新団体医療保険について、「健康経営配当」を新設、上乘せする危険差配当率は3～8%

■ 2016年度加入（経過5年）、男性、月払、10年更新型
過去5年間に入院給付金の支払いがない契約の例示

- ①未来のとびら（5年ごと配当契約）
死亡保険金2,000万円、介護保険金300万円、
就業不能年金140万円
- ②医療大臣プレミアエイト（5年ごと配当契約）
入院日額6千円、入院見舞給付特則あり

■ 2011年度加入（経過10年）、男性、月払、10年更新型
満期まで入院給付金の支払いがない契約の例示

- ①ケア・イズムアドバンス（5年ごと利差配当契約）
死亡保険金3,000万円+新積立型介護保険の死亡給付金、
介護保険金50万円
- ②医療大臣プレミア（5年ごと配当契約）
入院日額6千円

加入年齢	月払保険料	2021年度の		保険料に対する 配当金の割合※
		受取配当金	増配額	
40歳	12,488円	16,568円	200円	5.2%
医療保険	2,556円	2,568円	—円	1.6%
50歳	21,938円	43,816円	600円	8.6%
医療保険	4,044円	5,052円	—円	2.0%

※ 過去5年間の保険料の払込総額に対する配当金総額の割合

加入年齢	月払保険料	2021年度の		保険料に対する 配当金の割合※2
		受取配当金※1	増配額	
40歳	14,402円	90,354円	78円	8.8%
医療保険	2,568円	18,591円	78円	7.0%
50歳	26,889円	195,396円	168円	11.1%
医療保険	4,110円	35,196円	168円	8.3%

※1 受取配当金には満期契約に対する長期継続特別配当
(40歳加入は19,843円、50歳加入は34,524円)が含まれます。

※2 保険期間(10年)を通じた保険料の払込総額に対する配当金総額の割合

【ご参考】主要業績(2社合算、富国生命、フコクしんらい生命)

	2018年度	2019年度		2020年度	
				増減率/pt	増減率/pt
新契約高 ^(※)	1兆6,375億円	1兆6,688億円	1.9%	1兆6,105億円	▲ 3.5%
富国生命	1兆5,660億円	1兆5,577億円	▲ 0.5%	1兆4,998億円	▲ 3.7%
フコクしんらい生命	715億円	1,110億円	55.3%	1,106億円	▲ 0.4%
保有契約高 ^(※)	27兆6,395億円	27兆2,868億円	▲ 1.3%	27兆17億円	▲ 1.0%
富国生命	25兆1,603億円	24兆8,855億円	▲ 1.1%	24兆7,643億円	▲ 0.5%
フコクしんらい生命	2兆4,791億円	2兆4,013億円	▲ 3.1%	2兆2,374億円	▲ 6.8%
新契約年換算保険料 ^(※)	178億円	206億円	15.6%	181億円	▲ 12.3%
富国生命	152億円	148億円	▲ 2.9%	120億円	▲ 18.9%
フコクしんらい生命	26億円	58億円	2.23倍	61億円	4.3%
保有契約年換算保険料 ^(※)	5,590億円	5,496億円	▲ 1.7%	5,488億円	▲ 0.1%
富国生命	3,964億円	3,851億円	▲ 2.9%	3,785億円	▲ 1.7%
フコクしんらい生命	1,625億円	1,644億円	1.2%	1,703億円	3.5%
保険料等収入	5,774億円	6,299億円	9.1%	5,847億円	▲ 7.2%
富国生命	5,256億円	5,335億円	1.5%	4,850億円	▲ 9.1%
フコクしんらい生命	518億円	964億円	86.0%	997億円	3.5%
基礎利益	912億円	826億円	▲ 9.5%	828億円	0.3%
富国生命	912億円	834億円	▲ 8.6%	843億円	1.1%
保険関係損益	579億円	475億円	▲ 17.9%	472億円	▲ 0.6%
利差	333億円	359億円	7.6%	370億円	3.2%
フコクしんらい生命	▲ 0億円	▲ 8億円	—	▲ 14億円	—
連結ソルベンシー・マージン比率	1,236.4%	1,331.7%	+ 95.3pt	1,303.9%	▲ 27.8pt
富国生命	1,189.7%	1,290.8%	+ 101.1pt	1,261.6%	▲ 29.2pt
フコクしんらい生命	978.1%	968.1%	▲ 10.0pt	1,084.9%	+ 116.8pt

※ 個人保険と個人年金保険の合計